

結びついた縁

平

成21年7月、四国財務局の局長として赴任された河野邦明氏。香川大学のOBである河野局長には、香川をはじめ、四国の経済界から大きな期待が寄せられています。

河野氏は、局長という仕事を「中央と地域経済のパイプ役」と表現しました。その役目は大きく2つ。中央で決まった政策が地方で機能しているかどうか点検すること、地方の要望を中央に報告し、政策の決定に活かすことです。この役割を果たすため「できる限り現場に出て行き、自分の目で確かめ、直接話をし、広く声を吸い上げていきたい」と考えているそうです。局長の実直な性格が垣間見えますが、学生時代は「どちらか」とクラスに一人はいる「へんなやつだった」と言います。

河野局長は島根県出身。高校までを島根で過ごし、香川大学経済学部に入學しました。「東京や関西に進学する友だちがほとんどでした。それなら私は九州か四国に行つてやろうと思って(笑)」というのが大きな理由。たまたま上の上の先輩が進学していたことから、香川大学を選んだそうです。大学時代に熱をいれたのは「理論経済研究会」。3・4年生が1・2年生を教えるというサー

クルで、1・2年生は毎週レポートを発表する決まりだったそうです。真剣な活動で知られており、「経済全体をマクロで捉えられるようになったことが大きかったですね」と振り返る意義のある時間。実際、何人も大学の教授や国家公務員を排出しているそうです。結果として経済学漬けの4年間だったわけですが「学者に向いていないことも悟った」そう。学者にならないなら公共性のある仕事をしたいということで大蔵省(当時)に進むことを決めたのです。入省後、最初に配属されたのが四国財務局。勤め先は中野町、独身寮は昭和町で、「私にとっては運が良かった」という大学時代となら変わらない環境から社会人生活がスタートしました。この時に信用金庫の担当になり、現場で話を聞いた経験は、今でも生かされているそうです。その後は、大蔵省主計局・銀行局、近畿財務局、金融庁造幣局など、いろいろな場所ですべてを経験。「どうやって政策が生まれ、それが経済にどう影響を与えていくかを体験的に理解できた」と言います。しかし数多い仕事の中で、一番印象に残っているのは、平成元年〜四年にかけて、日本貿易振興会のロサンゼルスセンター

で働いた時のことだそうです。その当時、日本はちょうどバブルの絶頂期。日本製品がアメリカで飛ぶように売れ、日本人が一番自信をもっていました。一方、アメリカは失業率が10%近くに、ロス暴動まで起こる大不況。この対照的な状況の中で感じたのは、意外にも「アメリカの豊かさ」でした。不況とはいえ、長い時間を家族と一緒に過ごせ、住宅が広く安いアメリカ。バブルに浮かしながらも家族団欒の時間が少なく、住宅が憧れの存在であり続ける日本。「本当の豊かさは何か、考えるきっかけになりました。日本には根本的な問題があるように思います」。数々の重職を歴任した経済のスペシャリストでありながら、本当の豊かさを問うことのできる柔らかな感性。こんな方なら四国の経済をまかせても安心です。「こうしてまた、最初に働いた四国財務局に帰って来たことには強い縁を感じています。思い入れのある四国のために、私もこの仕事に全力を尽くすつもりです。2010年は、ドラマあり、国際芸術祭ありで、四国が非常に注目される年です。みんなで元氣な四国をアピールしていきたいですね」

河野邦明

PROFILE

- このくにあき
- 四国財務局 局長
- 昭和53年 香川大学経済学部卒業
- 昭和53年 四国財務局 入局
- 昭和62年 大蔵省銀行局調査課課長補佐
- 平成元年 日本貿易振興会ロサンゼルス・センター
- 平成4年 大蔵省証券局証券市場課課長補佐
- 平成10年 金融監督庁検査部検査総括課上席金融証券検査官
- 平成15年 預金保険機構 金融再生部次長
- 平成17年 財務省理財局 国有財産業務課長
- 平成19年 独立行政法人 造幣局総務部長 (一部抜粋)

CORPORATE PROFILE

財務省 四国財務局

香川県高松市中野町26-1 tel.087-831-2131

財政、国有財産などに関する諸施策を適正かつ円滑に実施していくために置かれた、財務省の総合的な出先機関。高松市に本局を置き、金融庁から権限の一部の委任を受けて、民間金融機関に対する検査及び監督等にかかる仕事もを行っている。



思い出のロサンゼルスセンター勤務時代。コロムビア川にて。



現場の経験を交えた「生きた経済学」を講義。